

登録コード	L1120100		開講年度	2026			
担当教員	三谷 尚澄 他			副担当	篠原 成彦		
授業科目	哲学・思想論概論						
英文授業名	Introduction to Philosophy						
授業タイトル	西洋思想入門						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	共通教育4 2 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ, 2 0 2 0 Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。			
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ, 2 0 2 3 Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。			
授業の概要	授業の前半では、i)「コスモポリタニズム」という大テーマを導きの糸に採用しつつ、ii)現代社会におけるさまざまな倫理的・政治的問題を取り上げると共に、iii)価値・道徳・文化・アイデンティティ・他者への善意といった倫理学上の主要概念に関する考察を行う。 授業の後半では、「心」、「因果」、「自由」など、哲学的・思想史的に重要な問題を取り上げる。原則として、入門・概説レベルの内容を講義形式で紹介する。 (＊なお、第1回は対面、第2回から第8回はオンライン／オンデマンド、第9回から第15回は対面の変則的な開講形態で授業が行われるので注意すること。)						
授業計画	第1回：ガイダンス〔対面〕 第2回：「コスモポリタンの思想」は死んだのだろうか？（三谷）〔オンライン／オンデマンド〕 第3回：「対話」と「共生」の倫理学を始めてみる（三谷）〔オンライン／オンデマンド〕 第4回：「普遍的道徳」なんて存在するのだろうか？（三谷）〔オンライン／オンデマンド〕 第5回：倫理において「原則」は役に立つのだろうか？（三谷）〔オンライン／オンデマンド〕 第6回：文化的純粋主義に反対し、「混交／混ぜこぜ」を称賛する（三谷）〔オンライン／オンデマンド〕 第7回：宗教的原理主義者たちの何が問題か（三谷）〔オンライン／オンデマンド〕 第8回：「見知らぬ他者たち」は道徳的に重要なのだろうか？（三谷）〔オンライン／オンデマンド〕 第9回：物心二元論と物理主義（篠原） 第10回：エネルギー保存則と物理現象の因果的閉包性（篠原） 第11回：クオリア（篠原） 第12回：相互作用的二元論、並行論、随伴現象説（篠原） 第13回：物心二元論のゆくえ（篠原） 第14回：物理主義と自由（篠原） 第15回：自由と罪（篠原）／授業アンケート 定期試験(レポート及び課題)						
成績評価の方法	前半についてのまとめレポート（5割）と後半の授業で与えられる小テスト形式の課題（5割）をあわせて、[1] 授業で扱った哲学的・思想史的問題についての理解、[2] 論理的・批判的に問題を吟味・検討する能力、[3] 問題を明瞭に整理して伝達する能力を総合的に評価する。						
成績評価の基準	レポート課題および小テスト形式の課題に対し、(i)適切なまとめと建設的かつ説得的な論点が記述できていれば「卓越している」。(ii)適切なまとめと説得的な論点が記述できていれば「かなり上にある」。(iii)整合的なまとめと十分に妥当な論点が記述できていれば「やや上にある」。(iv)瑕疵のないまとめと妥当性の認められる論点が記述されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	配布された資料を熟読し、毎回の授業内容の理解に努める。また、授業で取り上げられたテーマについて自分なりに熟慮し、仲間たちと議論することで、ひろく「大学で人文学を学ぶことの意味」について考えを深める。						
履修上の注意	講義科目であるが、配布される資料を授業外の時間においてもみずから繰り返し読み、考える、という態度が受講者には要求される。(なお、上述の通り、第2回から第8回はオンライン／オンデマンド、第9回から第15回は対面の変則的な開講形態で授業が行われるので注意すること。)						
質問、相談への対応	下記のオフィスアワーに対応する。 三谷 火曜日12:15～13:15 篠原 木曜日14:40～16:10						

教科書	原則として、以下のテキストを各自で入手するようにしてください。 *クワメ・アンソニー・アッピア『コスモポリタニズム / 「違いを越えた交流と対話」の倫理』、みすず書房、2022年
参考書	戸田山和久『哲学入門』、筑摩書房、2014年

登録コード	L1120200		開講年度	2026			
担当教員	護山 真也 他			副担当	早坂 俊廣		
授業科目	哲学・思想論概論						
英文授業名	Introduction to Philosophy						
授業タイトル	哲学・思想論概論						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前が対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			インド哲学・仏教学・中国思想に関して、高校倫理までの学習で自明とされた事柄に対して、最新の研究成果等を踏まえて自らの思索を行うことができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
授業の概要	【2023年度以降が対象】文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			インド哲学・仏教学・中国思想に関して、高校倫理までの学習で自明とされた事柄に対して、最新の研究成果等を踏まえて自らの思索を行うことができるようになる。			
	前半はインド哲学・仏教哲学から、後半は中国哲学・日本哲学から、「自己」「言葉」「心」というテーマをめぐる代表的な考え方を取り上げます。原則として、入門・概説レベルの内容が講義形式で紹介されます。これにより、【授業のねらい】1.と2.を実現します。前半1回、後半1回のレポートが課されますので、それに取り組むことで【授業のねらい】3.も目指します。						
授業計画	第1回：イントロダクション - 「東洋哲学」をめぐるあれこれ（護山、早坂） 第2回：真実の自己を探して - ウパニシャッド哲学（護山） 第3回：真実の自己はない - ブッダの人間観（護山） 第4回：それでも自己が必要なわけ - 『ミリンダ王の問い』と人格の同一性の問題（護山） 第5回：空は無ではない - 『般若心経』の世界（護山） 第6回：言葉を超えて - ナーガールジュナの空思想（護山） 第7回：心の謎 - 唯識の哲学（護山） 第8回：信仰と論理 - 仏教論理学(30分) 試験（60分）（護山） 第9回：「克己復礼」～孔子とは一体だれのことか？～（早坂） 第10回：「性善」と「性悪」～孟子と荀子の人間観～（早坂） 第11回：「本来無一物」～老荘思想と禅仏教～（早坂） 第12回：「八条目」～朱子学と陽明学 その1～（早坂） 第13回：「性即理」と「心即理」～朱子学と陽明学 その2～（早坂） 第14回：海を渡った日中の宗教人・知識人（早坂） 第15回：江戸思想史再考・授業アンケート（早坂）						
成績評価の方法	前半・後半二回のレポートで成績評価を行います。						
成績評価の基準	前半レポートと後半のレポートの結果をあわせて、最終的な成績を決定します。また、成績評価の基準は以下の通りです。 成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	毎回の講義に対して、事前・事後に各自で配布プリントを見直し、必要に応じて、図書館で関連する文献にあたってもらいます。その積み重ねがなければ、レポート作成は困難です。						
履修上の注意	このシラバスをしっかりと読んでから履修してください。また、eALPSの内容をそのつど確認し、そこでの指示に従って学修を進めてください。						
質問、相談への対応	メールで対応します。 護山：smoriyam@shinshu-u.ac.jp 早坂：hayask@shinshu-u.ac.jp						
教科書	授業中にプリントを配布します。あるいは、eALPS上にPDF資料を掲載します。						
参考書	赤松明彦『インド哲学10講』（岩波新書） 桂紹隆監修『インド哲学の万華鏡』（春秋社） 竹村牧男『入門 哲学としての仏教』（講談社現代新書）						

参考書	魚川祐司『仏教思想のゼロポイント』（新潮社） 横山紘一『唯識の思想』（講談社学術文庫） 桂紹隆『インド人の論理学』（法蔵館文庫） 護山真也『仏教哲学序説』（ぶねうま舎） 中島隆博『中国哲学史』（中公新書） 湯浅邦弘 編『中国思想基本用語集』（ミネルヴァ書房） 田尻祐一郎『江戸の思想史』（中公新書）
-----	---

登録コード	L1133300		開講年度	2026			
担当教員	篠原 成彦			副担当			
授業科目	哲学・思想論特論						
英文授業名	Phi losophy						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力				タブロー法の技術を身につけ、さまざまな推論の妥当性／非妥 当性を判定できるようになる。さらにその理論的根拠を理解す る。		
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己 の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシ ー				論理学のさまざまな方法論と証明戦略についての知識を培うこ とで、理論的な言説の創造性を理解できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				タブロー法の技術を身につけ、さまざまな推論の妥当性／非妥 当性を判定できるようになる。さらにその理論的根拠を理解す る。		
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能 な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				論理学のさまざまな方法論と証明戦略についての知識を培うこ とで、理論的な言説の創造性を理解できるようになる。		
	[1] 推論・論証が論理的に適切な仕方で行なわれているかを判定する技術と、[2] 論理学の方法論と戦 略についての知識を培います。これらによって、[a] さまざまな推論・論証が論理的に妥当であるかを判 断できるようになり、さらに[b] 理詰めで創造的な思考とはどのようなものであるかが解るようにな ります。						
授業計画	第1回 イントロダクション（拡張的推論と演繹） 第2回 真理値表と推論の論理的妥当性 第3回 演繹的推論の遂行：自然演繹 課題[1]の出題 第4回 論理結合子の相互関係と「ならば」の問題 課題[2]の出題 第5回 演繹的推論の評価：タブロー法 課題[3]の出題 第6回 タブロー法（命題論理）を使いこなす 課題[4]の出題 第7回 量子化と命題関数 課題[5]の出題 第8回 多重量化 課題[6]の出題 第9回 量子化に関する4個の規則 課題[7]の出題 第10回 タブロー法（述語論理）を使いこなす 課題[8]の出題 第11回 同一性記号「＝」に関する2個の規則 課題[9]の出題 第12回 関数定項・述語変項・関数変項 課題[10]の出題 第13回 第一階述語論理の完全性 課題[11]の出題 第14回 第一階述語論理の決定不可能性 課題[12]の出題 第15回 第二階述語論理の不完全性／授業アンケート 課題[13]の出題						
成績評価の方法	第3回以降は毎回課題を設け、その結果を集計して成績を決定します。期末試験は行いません。						
成績評価の基準	講義で扱った事柄について、全般に際だって深い理解が得られていれば「卓越している」、いくぶん高度 な問いにも大半は的確に答えられるだけの理解が得られていれば「かなり上にある」、いくぶん高度な問 いにもある程度は的確に答えられるだけの理解が得られていれば「やや上にある」、基本レベルの問いの 大半は的確に答えられるだけの理解が得られていれば「目標の水準にある」と判断します。						
事前事後学習の内容	課題への取り組みを通じて毎回の内容を復習し、さらに次の回で講義される内容を事前に確認しておきま しょう。						
履修上の注意	欠席した場合は、必ず資料を用いて理解を補っておきましょう。						
質問、相談への対応	授業終了後、時間があればその場で質問に応じます。また、木曜日の12:10から13:00までをオフィスアワ ーとします。来室の際は事前に必ずeメール（nshinoi@shinshu-u.ac.jp まで）などで連絡してください。						
教科書	eALPSを用いてPDF資料を配布します。						
参考書	戸田山和久『論理学を作る』（名古屋大学出版会）						

登録コード	L1133600	開講年度	2026				
担当教員	三谷 尚澄			副担当			
授業科目	哲学・思想論特論						
英文授業名	Philosophy						
授業タイトル	西洋思想特殊講義						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文第1講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			・概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの高いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。			
授業の概要	「わたしたちの日常的な生」と「アート」と「哲学」。これら三者のあいだには、どのような関係が成り立っているのだろうか。「哲学」や「アート」がもつ独特の力——「わたしたちの生に変容をもたらし、解放する力」——に焦点をあわせつつ、「生」と「哲学」と「アート」のあいだに成り立っている、「分かたつことのできない、もつれあった関係」のありようを明らかにすること。このことがこの授業の目的である。						
	今年度は、とくに、この問題を主題的に扱ったアルヴァ・ノエ——現代英米圏における心の哲学を代表する論者であると同時に、近年は美学やアートをテーマとした注目すべき業績を矢継ぎ早に公表していることでもその名を知られる哲学者である——の著作を題材に、上記のテーマに関するサーベイと検討を行う。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：Art in Mind 第3回：Domestic Entanglements 第4回：Dance Incorporate 第5回：Styles of Seeing 第6回：The Writerly Attitude 第7回：The Aesthetic Predicament 第8回：Fragile Bodies 第9回：Existential Style 第10回：Toward an Aesthetics for the Entanglement 第11回：Reorienting Ourselves 第12回：The Seepage Problem 第13回：Nature after Art 第14回：まとめと展望（1） 第15回：まとめと展望（2）／授業アンケート						
成績評価の方法	授業で解説された哲学的諸問題に関する適切な理解がなされているかについて、学期中のプロトコル報告（もしくはレポート）と学期末レポートの結果をあわせて総合的に評価する。（前者が3割、後者が7割。）						
成績評価の基準	教員の提示するレポート課題に対し、(i)適切なまとめと建設的かつ説得的な論点が記述できていれば「卓越している」。(ii)適切なまとめと説得的な論点が記述できていれば「かなり上にある」。(iii)整合的なまとめと十分に妥当な論点が記述できていれば「やや上にある」。(iv)瑕疵のないまとめと妥当性の認められる論点が記述されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	課題資料を熟読し、毎回の授業内容の理解に努める。また、授業で扱われたテーマに関して、受講生同士での自発的な議論を行い、発展的な論点の発掘を心がける。						

履修上の注意	講義課目であるが、配布されるプリントを授業外の時間においてもみずから繰り返し読み、考える、という態度が受講者には要求される。また、各回の授業のはじめに、先回の授業内容を、担当者が受講生全体に向けて解説するプロトコル報告の時間を設ける。成績評価の対象となるので、しっかり取り組むこと。
質問、相談への対応	オフィスアワー（火曜12時15分～13時15分）を通じて対応する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	Alva Noe, "The Entanglement--how art and philosophy make us what we are", Princeton U.P., 2023.

登録コード	L1133900	開講年度	2026				
担当教員	早坂 俊廣			副担当			
授業科目	哲学・思想論特論						
英文授業名	Philosophy						
授業タイトル	中国思想講義						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文第2講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断を行うことができる。		
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力				過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓くことができる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				授業内容を的確に把握・吟味し、その結果を独自に展開することができる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				授業内容を的確に把握・吟味し、その結果を他者に簡潔に伝えることができる。		
授業の概要	教科書として、中島隆博『中国哲学史 諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで』（中公新書）を使用します。同書は、書名から安易に想像しがちな、「中国哲学史」の知識が満遍なく／効率よく獲得できる類いの書物ではありません。「中国哲学史」を、「中国（語）の経験を通じて、批判的な仕方、概念を歴史において洗練し、普遍に向かって開いていくこと」と規定する同書と格闘しながら（講義は、同書の順番通りに必ずしも進行しません）、「中国哲学史」について考察と理解を深めていってもらいます。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2週 中国と哲学、哲学と哲学史 第3週 中国哲学史の起源 第4週 正名 第5週 性と化 第6週 礼と法 第7週 柔弱と水 第8週 天と人 第9週 無と自然 第10週 形と神 第11週 言と文 第12週 善と悪 第13週 生、死、殺 第14週 西洋と東洋 第15週 まとめ・授業アンケート 定期試験：なし（レポート提出）						
成績評価の方法	毎授業後のeALPSフォーラム欄への投稿5割、期末レポート5割の比率で、到達度を総合的に評価します。						
成績評価の基準	成績評価の基準は以下の通りです。 成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	教科書を、事前事後に熟読玩味してください。毎授業後、必ずeALPSフォーラム欄への投稿を行ってください。						
履修上の注意	eALPSの当該コースをこまめにチェックしてください。eALPSフォーラム欄への投稿を以て出欠確認を行います。						
質問、相談への対応	まずは、メールでhayask@shinshu-u.ac.jpまで連絡をください。						
教科書	中島隆博『中国哲学史 諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで』（中公新書） 1320円（税込み） 発行年月 2022年02月 ISBN 9784121026866						
参考書	授業中に適宜紹介します。						

登録コード	L1134200		開講年度	2026			
担当教員	護山 真也			副担当			
授業科目	哲学・思想論特論						
英文授業名	Philosophy						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5 時限
講義室	人文第 4 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ，2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			言語哲学をはじめとする哲学的問題に関して、西洋哲学・仏教哲学の議論を整理し、その比較から新たな認識を構築することができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			西洋哲学や仏教哲学の古典に説かれる議論を文献実証的に読み解き、それをヒントに現代の諸問題に取り組むことができる、しなやかな知性を身につける。			
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			言語哲学をはじめとする哲学的問題に関して、西洋哲学・仏教哲学の議論を整理し、その比較から新たな認識を構築することができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			西洋哲学や仏教哲学の古典に説かれる議論を文献実証的に読み解き、それをヒントに現代の諸問題に取り組むことができる、しなやかな知性を身につける。			
授業の概要	この授業では仏教哲学を中心とした比較哲学のためのいくつかのトピックを主題としてとりあげ、それぞれに対する仏教哲学・西洋哲学のアプローチの違いを解説していきます。ここでは、（１）言語哲学，（２）決定論と自由意志，（３）倫理学の基礎付けという３つのトピックに関する考察を行います。						
授業計画	第01回 比較哲学とは何か 第02回 言語哲学：仏教における言葉の問題 梵天勧請 第03回 言語哲学：ナーガールジュナの言語批判 第04回 言語哲学：ディグナーガのアポーハ論 第05回 言語哲学：ダルマキールティのアポーハ論 第06回 決定論と自由意志：問題の概観 第07回 決定論と自由意志：ブッダvs. マッカリ・ゴースーラ 第08回 決定論と自由意志：アビダルマ仏教の因果論 第09回 決定論と自由意志：物理的因果／業の因果／不二の世界 第10回 決定論と自由意志：まとめ 第11回 仏教倫理学の可能性：和辻哲郎 第12回 仏教倫理学の可能性：空と慈悲 第13回 仏教倫理学の可能性：菩薩の生き方 第14回 仏教倫理学の可能性：仏教的ケアの倫理 第15回 仏教倫理学の可能性：まとめ、授業アンケート						
成績評価の方法	授業のリアクション（e-ALPS）の記述10％，最終レポート90％の比率で、総合的に評価します。						
成績評価の基準	レポートの成績評価の基準は以下の通りです。 （i）比較思想の方法を習得し，比較対象となる二つの思想それぞれに対する理解があり，それらの差異を自分なりの視点から捉え，論理的な表現で自らの意見を記述できていれば，「卓越している」。 （ii）比較思想の方法を習得し，比較対象となる二つの思想それぞれに対する理解があり，それらの差異を記述できていれば，「かなり上にある」。 （iii）比較思想の方法を習得し，比較対象となる二つの思想いずれかの理解にもとづく記述ができていれば，「やや上にある」。 （iv）比較思想の方法を習得していることが分かる記述であれば，「水準にある」。						
事前事後学習の内容	西洋哲学および仏教に関する高校倫理の内容を前提として授業を進めますので，受講前に特に仏教と西洋近代思想については事前に予習をしておいてください。また，それぞれのトピックに関する参考文献等を授業で紹介しますので，随時，それらの文献を通して事後学習に取り組んでください。						
履修上の注意	特にありません。						
質問、相談への対応	基本的にメール（smoriyam@shinshu-u.ac.jp）で受け付けます。講義のあとに質問してもらっても構いません。						
教科書	授業中にプリントを配布します。						
参考書	桂紹隆他編『シリーズ大乘仏教 9 認識論と論理学』春秋社，2012年 片岡啓他編『インド哲学の万華鏡』春秋社，2025年 護山真也『仏教哲学序説』ぶねうま舎，2021年						

参考書

桂紹隆・五島清隆『龍樹『根本中頌』を読む』春秋社, 2016年
上山 春平, 櫻部 建『仏教の思想 2 存在の分析<アビダルマ>』KADOKAWA, 1996年
平岡 聡『業 とは何か: 行為と道德の仏教思想史』筑摩書房, 2016年
トーマス・ピンク『哲学がわかる 自由意志 (A VERY SHORT INTRODUCTION)』岩波書店, 2017年
和辻哲郎『和辻哲郎仏教哲学読本 1』書肆心水, 2011年

登録コード	L1134500	開講年度	2026				
担当教員	篠原 成彦			副担当			
授業科目	哲学・思想論基幹演習						
英文授業名	Philosophy Foundation Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3 時限
講義室	人文第 1 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				哲学的問題の研究を追跡することで、日常に潜む謎を自分の言葉で語ることができるようになる。		
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー				哲学的問題にかんするディスカッションを通じて、汎用の技能としての理解力・表現力を身につける。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				哲学的問題の研究を追跡することで、日常に潜む謎を自分の言葉で語ることができるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				哲学的問題にかんするディスカッションを通じて、汎用の技能としての理解力・表現力を身につける。		
授業の概要	教材はウィトゲンシュタイン著／鬼界訳『哲学探究』です。必要に応じて原著と照らし合わせながら、丁寧な読解とディスカッションを行います。随時、初学者向けの解説を行います。						
授業計画	第1回 この演習の狙いと使用する文献についての説明 第2回 第3回以降のための準備 第3回 『哲学探究』第611-613節の検討 第4回 『哲学探究』第611-613節を振り返る・第614-619節の検討 第5回 『哲学探究』第614-619節を振り返る・第620-628節の検討 第6回 『哲学探究』第620-628節を振り返る・第629-632節の検討・課題 の出題 第7回 『哲学探究』第629-632節を振り返る・第633-638節の検討 第8回 『哲学探究』第633-638節を振り返る・第639-651節の検討 第9回 『哲学探究』第639-651節を振り返る・第652-660節の検討 第10回 『哲学探究』第652-660節を振り返る・第661-668節の検討・課題 の出題 第11回 『哲学探究』第661-668節を振り返る・第669-679節の検討 第12回 『哲学探究』第669-679節を振り返る・第680-684節の検討 第13回 『哲学探究』第680-684節を振り返る・第685-693節の検討 第14回 『哲学探究』第685-693節を振り返る 第15回 『哲学探究』第十五・十六章を振り返る・授業アンケート・課題 の出題						
成績評価の方法	発表を中心とする平常の成果50%、課題 ～ の得点50%で総合的な成績を定めます。期末試験は行いません。						
成績評価の基準	平常の成果および課題の内容が、全般に際立って高度であれば「卓越している」、全般に的確でありかつ深い理解や注目すべき論点を含むものであれば「かなり上にある」、全般に的確であれば「やや上にある」、大きな不備や誤りの無いものであれば「目標の水準にある」と判断します。						
事前事後学習の内容	演習は全員がしっかり予習していることを前提とした授業です。予習に際しては、疑問をできる限り自分で解く努力をしましょう。また、毎回じゅうぶんな復習を行うことで、理解を積み上げていきましょう。						
履修上の注意	出席者全員に積極的な発言が求められます。						
質問、相談への対応	授業終了後、時間があればその場で質問に応じます。また、木曜日の16:20から17:50までをオフィスアワーとします。来室の際は事前に必ずeメール（nshinoi@shinshu-u.ac.jp まで）などで連絡してください。						
教科書	ウィトゲンシュタイン, L. / 鬼界彰夫訳, 2020, 『哲学探究』, 講談社, 978-4062199445, ¥3080. 野矢茂樹, 2022, 『ウィトゲンシュタイン 『哲学探究』という戦い』, 講談社, 978-4000240635, ¥2860.						
参考書	Wittgenstein, L., 2009, Philosophical Investigations, revised fourth edition, Wiley-Blackwell, 978-1405159296, ¥5145.						

登録コード	L1134800	開講年度	2026				
担当教員	三谷 尚澄			副担当			
授業科目	哲学・思想論基幹演習						
英文授業名	Philosophy Foundation Seminar						
授業タイトル	哲学基幹演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文第2講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			・概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの高いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】						
	哲学を学ぶうえで、読み、考え、議論し、書く能力の訓練と修得が必須であることは言うまでもない。しかし、同時に、こういった哲学の技法を使いこなせるようになるためには、さまざまな問題をめぐる代表的な見解を理解し、背景の知識として蓄え、自分自身のボキャブラリーの一部として使いこなせるようになっておく、という「まねび／真似び」のプロセスもまた同等に重要である。 このような考え方に基づいて、この授業では、（１）歴史的に重要な哲学的問題を扱った、日本語もしくは英語で書かれた標準的なレベルの文献を取り上げ、（２）それらの文献の自主的な読解を通じて、発展的な学びの土台となる堅実な知的基盤を構築すると同時に、（３）担当者の報告をもとに共同で討議することで、明晰なプレゼンテーションと建設的な対話の能力を涵養することを目指す。 なお、本年度は、「若者論」をテーマとする文献を取り上げ、検討の対象とする予定である。いわゆる「若者論」は世に数多く出回っているが、「当事者不在の若者論」ほど痛々しいものもないように思われる。であるならば、「当事者としての若者」の存在が前提となる演習の場において、あえて「若者論」を主題とする議論を行なってみることに一定の価値が見出されるのではないかと考えてのテーマ選択である。 また、「哲学」という知的営みに関心を寄せる市民としての視点から、たとえば「Z世代」というキーワードをめぐる思索を深めることを通じて、「《哲学なんて現代の日本社会にはまったく必要とされていないのではないか？》という悲観的直観にどの程度の妥当性が認められるべきなのか」という課題について自分なりの言葉で考え始めることができるようになることを目指す。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：Z世代の住処——SNS、学校、友達、若者世界のリアリティ（１） 第3回：Z世代の住処——SNS、学校、友達、若者世界のリアリティ（２） 第4回：消費の主役・Z世代——経営者化する社会（１） 第5回：消費の主役・Z世代——経営者化する社会（２） 第6回：唯言が駆動する非倫理的ビジネス——開かれたネットワークの閉じられたコミュニティ（１） 第7回：唯言が駆動する非倫理的ビジネス——開かれたネットワークの閉じられたコミュニティ（２） 第8回：劇的な成長神話——モバイルプランナーのアナザーストーリー（１） 第9回：劇的な成長神話——モバイルプランナーのアナザーストーリー（２） 第10回：消えるブラック、消えない不安——当たりガチャを求めて（１） 第11回：消えるブラック、消えない不安——当たりガチャを求めて（２） 第12回：不安と唯言のはてに——われわれに何ができるのか（１） 第13回：不安と唯言のはてに——われわれに何ができるのか（２）						

授業計画	第14回：まとめと展望 第15回：まとめと展望 / 授業アンケート
成績評価の方法	扱われた哲学的話題が適切に理解できているかについて、担当回での発表の内容（5割）と学期末のレポート（5割）をあわせて総合的に評価する。
成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	発表担当でない回についても、資料の該当箇所を熟読してくる。また、授業終了後には、授業において議論された内容について熟慮し、次回以降の議論に生かすことができるよう整理しておくこと。
履修上の注意	各受講者には、自分の発表担当でない回にも出席し、積極的に発言することが必須の責任として要求される。
質問、相談への対応	オフィスアワー 火曜12時15分～13時15分 を通じて対応する。
教科書	舟津昌平『Z世代化する社会 お客様になっていく若者たち』東洋経済新報社、2024年
参考書	授業中に指示する。

登録コード	L1135100	開講年度	2026				
担当教員	早坂 俊廣			副担当			
授業科目	哲学・思想論基幹演習						
英文授業名	Philosophy Foundation Seminar						
授業タイトル	哲学・思想論入門演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				中国古代哲学の成果を理解し、現代に生きる自分の生活に活かすことができる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				教科書の内容を理解し、それを的確に説明し吟味することができる。		
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】						
授業の概要	中国哲学について分かりやすく解説したテキストを、受講者で協力しながら読解し、内容分析に関する報告を行っていきます。報告に関する討論を通して、批判的な分析能力を養うとともに、レポート・論文を作成する技法も習得していきます。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2週 報告レジュメの作成方法 第3週 「死して亡びざる者は寿—『老子』の死生観—」講読・討議 第4週 「死生は命なり—『莊子』の死生観—」講読・討議 第5週 「不死への希求—神僊の形成—」講読・討議 第6週 「淮南王登仙の夢—『淮南子』の背景—」講読・討議 第7週 「孔孟の「命」について—人間性とその限界—」講読・討議 第8週 「「天」について—孔子の宗教的立場—」講読・討議 第9週 「「知命」について—人間存在の自覚—」講読・討議 第10週 「欲望のあり方—荀子の所説をめぐって—」講読・討議 第11週 「中国の欲望論—古代思想の諸相—」講読・討議 第12週 中国古代の死生観をめぐって 第13週 中国古代の運命観をめぐって 第14週 中国古代の欲望論をめぐって 第15週 まとめ・授業アンケート 定期試験：なし（レポート提出）						
成績評価の方法	発表と授業中の発言50％／最終レポート50％の比率により、最終的な成績を決定します。						
成績評価の基準	成績評価の基準は以下の通りです。 成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	教科書をしっかりと読み込むことは必須です。また、教科書の言及する原文にも直接当たって内容をより深く把握できるよう努めてください。						
履修上の注意	哲学・芸術論コースの学生のうち、哲学・思想論に興味関心のある学生は積極的に受講してください。教科書は必ず購入してください。						
質問、相談への対応	まずは、早坂：hayask@shinshu-u.ac.jpにメールを送ってください。						
教科書	金谷治『死と運命 中国古代の思索』（法蔵館文庫） 本体1,100円＋税 発行年月日 2022年03月 ISBN 9784831826329						
参考書	授業中に随時、紹介します。						

登録コード	L1142300	開講年度	2026				
担当教員	篠原 成彦		副担当				
授業科目	哲学・思想論発展演習						
英文授業名	Philosophy Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3 時限
講義室	人文第 2 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				哲学的問題の研究を追跡することで、日常に潜む謎を自分の言葉で語ることができるようになる。		
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー				哲学的問題にかんするディスカッションを通じて、汎用の技能としての理解力・表現力を身につける。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				哲学的問題の研究を追跡することで、日常に潜む謎を自分の言葉で語ることができるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				哲学的問題にかんするディスカッションを通じて、汎用の技能としての理解力・表現力を身につける。		
授業の概要	教材はウィトゲンシュタイン著／鬼界訳『哲学探究』です。必要に応じて原著と照らし合わせながら、丁寧な読解とディスカッションを行います。						
授業計画	第1回 この演習の狙いと使用する文献についての説明 第2回 第3回以降のための準備 第3回 『哲学探究』第491-499節の検討 第4回 『哲学探究』第491-499節を振り返る・第500-510節の検討 第5回 『哲学探究』第500-510節を振り返る・第511-521節の検討 第6回 『哲学探究』第511-521節を振り返る・第522-533節の検討・課題 の出題 第7回 『哲学探究』第522-533節を振り返る・第534-546節の検討 第8回 『哲学探究』第534-546節を振り返る・第547-557節の検討 第9回 『哲学探究』第547-557節を振り返る・第558-571節の検討 第10回 『哲学探究』第558-571節を振り返る・第572-583節の検討・課題 の出題 第11回 『哲学探究』第572-583節を振り返る・第584-591節の検討 第12回 『哲学探究』第584-591節を振り返る・第592-602節の検討 第13回 『哲学探究』第592-602節を振り返る・第603-610節の検討 第14回 『哲学探究』第603-610節を振り返る 第15回 『哲学探究』第十四章を振り返る・授業アンケート・課題 の出題						
成績評価の方法	発表を中心とする平常の成果50%、課題 ～ の得点50%で総合的な成績を定めます。期末試験は行いません。						
成績評価の基準	平常の成果および課題の内容が、全般に際立って高度であれば「卓越している」、全般に的確でありかつ深い理解や注目すべき論点を含むものであれば「かなり上にある」、全般に的確であれば「やや上にある」、大きな不備や誤りの無いものであれば「目標の水準にある」と判断します。						
事前事後学習の内容	演習は全員がしっかり予習していることを前提とした授業です。予習に際しては、疑問をできる限り自分で解く努力をしましょう。また、毎回じゅうぶんな復習を行うことで、理解を積み上げていきましょう。						
履修上の注意	教科書 で得られる程度の予備知識を前提した授業です。出席者全員に積極的な発言が求められます。						
質問、相談への対応	授業終了後、時間があればその場で質問に応じます。また、木曜日の16:20から17:50までをオフィスアワーとします。来室の際は事前に必ずeメール（nshinoi@shinshu-u.ac.jp まで）などで連絡してください。						
教科書	ウィトゲンシュタイン, L. / 鬼界彰夫訳, 2020, 『哲学探究』, 講談社, 978-4062199445, ¥3080. 野矢茂樹, 2022, 『ウィトゲンシュタイン 『哲学探究』という戦い』, 講談社, 978-4000240635, ¥2860.						
参考書	Wittgenstein, L., 2009, Philosophical Investigations, revised fourth edition, Wiley-Blackwell, 978-1405159296, ¥5145.						

登録コード	L1142600		開講年度	2026			
担当教員	三谷 尚澄			副担当			
授業科目	哲学・思想論発展演習						
英文授業名	Philosophy Advanced Seminar						
授業タイトル	哲学発展演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文５０１演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	２０２２Ｌカリ，２０２１Ｌカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			・概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの深いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。			
	２０２６Ｌカリ，２０２５Ｌカリ，２０２４Ｌカリ，２０２３Ｌカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			・概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの深いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。				
授業の概要	哲学を学ぶうえで、読み、考え、議論し、書く能力の訓練と修得が必須であることは言うまでもない。しかし、同時に、こういった哲学の技法を使いこなせるようになるためには、さまざまな問題をめぐる代表的な見解を理解し、背景的知識として蓄え、自分自身のボキャブラリーの一部として使いこなせるようになっておく、という「まねび／真似び」のプロセスもまた同等に重要である。 このような考え方に基づいて、この授業では、（１）歴史的に重要な哲学的問題を扱った、日本語もしくは英語で書かれた発展的なレベルの文献を取り上げ、（２）それらの文献の自主的な読解を通じて、発展的な学びの土台となる堅実な知的基盤を構築すると同時に、（３）担当者の報告をもとに共同で討議することで、明晰なプレゼンテーションと建設的な対話の能力を涵養することを目指す。 なお、本年度は、「近代」と呼ばれる時代に特有の困難を見据えつつ、「他ならぬこのわたし（ほんもののわたし）」として生きることにまつわるさまざまな哲学的問題をテーマとしたチャールズ・テイラーの文献を読み進めることで、「現代的課題と正面から対峙しつつ哲学する」とはどのようなことであるかを実際に体験し、さまざまな現代的課題に関する哲学的思索を自分自身の力で始められるようになることを最終目標とする。						
授業計画	第１回：ガイダンス 第２回：三つの不安 第３回：かみ合わない論争 第４回：ほんものという理想の源泉 第５回：第一部のまとめ 第６回：逃れられない地平 第７回：承認の二ード 第８回：主観主義へのすべり坂 第９回：闘争は続く 第10回：第二部のまとめ 第11回：もっと微妙な言語						

授業計画	第12回：鉄の檻？ 第13回：断片化に抗して 第14回：第三部のまとめ 第15回：全体の振り返りと展望 / 授業アンケート
成績評価の方法	扱われた哲学的話題が適切に理解できているかについて、担当回での発表の内容（５割）と学期末のレポート（５割）をあわせて総合的に評価する。
成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	発表担当でない回についても、資料の該当箇所を熟読してくる。また、授業終了後には、授業において議論された内容について熟慮し、次回以降の議論に生かすことができるよう整理しておくこと。
履修上の注意	各受講者には、自分の発表担当でない回にも出席し、積極的に発言することが必須の責任として要求される。
質問、相談への対応	オフィスアワー 火曜12時15分～13時15分 を通じて対応する。
教科書	チャールズ・テイラー（田中智彦訳）『ほんもの という倫理 近代とその不安』ちくま学芸文庫、2023年
参考書	Charles Taylor, "The Ethics of Authenticity", Harvard U. P., 1991.

登録コード	L1142900	開講年度	2026				
担当教員	早坂 俊廣			副担当			
授業科目	哲学・思想論発展演習						
英文授業名	Philosophy Advanced Seminar						
授業タイトル	中国思想発展演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文501 演習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前が対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				教科書の内容を正確に理解し、的確に吟味することができる。		
	【2023年度以降が対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				教科書の内容を把握し、それを現代社会に適用することができる。		
授業の概要	小島毅『近代日本の陽明学』という書物を講読しながら、「陽明学」という思潮について考察と理解を深めていってもらいます。毎回、担当者を決めて、内容要約・問題提起・考察を報告してもらいます。その報告をめぐって受講者全員で討議を行います。報告と討議を通して、批判的な分析能力を養うとともに、レポート・論文を作成する技法も習得していきます。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2週 陽明学概観 第3週 「序文」と「プロローグ」、「エピローグ」を読む 第4週 「エピソードⅠ 大塩中斎―やむにやまれぬ反乱者」を読む 第5週 「エピソードⅡ 国体論の誕生―水戸から長州へ」を読む 第6週 「エピソードⅢ 御一新のあと―敗者たちの陽明学」を読む 第7週 「エピソードⅣ 帝国を支えるもの―カント・武士道・陽明学」を読む 第8週 「エピソードⅤ 日本精神―観念の暴走」を読む 第9週 「エピソードⅥ 闘う女、散る男―水戸の残照」を読む 第10週 「増補Ⅰ 近代における朱子学・陽明学」を読む 第11週 「増補Ⅱ 亙理章三郎と西田幾多郎の陽明学発掘作業」を読む 第12週 「増補Ⅲ 中江兆民の自由論」を読む 第13週 「増補Ⅳ 渋沢栄一の自由論」を読む 第14週 全体討論 第15週 まとめ・授業アンケート 定期試験：なし（レポート提出）						
成績評価の方法	発表と授業中の発言50％／最終レポート50％の比率により、最終的な成績を決定します。						
成績評価の基準	成績評価の基準は以下の通りです。 成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	教科書を、事前事後に熟読玩味してください。						
履修上の注意	教科書は必ず購入してください。						
質問、相談への対応	まずは、メールでhayask@shinshu-u.ac.jpまで連絡をください。						
教科書	小島毅『近代日本の陽明学』（講談社学術文庫） 1,250 円+税 発行年月 2024年3月 ISBN 9784065352144						
参考書	授業時に適宜、紹介します。						

登録コード	L1143200	開講年度	2026				
担当教員	護山 真也		副担当				
授業科目	哲学・思想論発展演習						
英文授業名	Philosophy Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			仏教倫理の議論を読み解き、批判的考察を加えながら、自らの見解を展開することができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーション力			仏教倫理に関する議論を専門の見地から考察することを通して、現代社会の問題に通じる視点を見だし、自己の主張を表現できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			仏教倫理の議論を読み解き、批判的考察を加えながら、自らの見解を展開することができるようになる。			
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】						
授業計画	教科書に沿いながら、仏教倫理の主要なテーマを横断的に取り上げます。仏教と倫理の緊張関係をめぐる考察を通して、仏教と倫理双方の土台を問い直すことがこの演習の目的になります。教科書は一般向けに書かれたものですが、そこで取り上げられる仏教経典や論書については、図書館などで原典や翻訳にあたり、議論の背景を理解しなければなりません。発表者の発表資料をもとに、授業参加者全員で、論点を深く掘り下げるためのディスカッションを行います。つまり、教科書を素材としながら、どこまでオリジナルの議論を構築できるか、が発表者・参加者の双方に求められるということです。 第01回：イントロダクション 第02回：仏教も倫理も疑わしい／仏教の倫理性欠如 第03回：原始仏教の倫理性／菩薩の他者論 第04回：倫理から超・倫理へ／空の原理の曖昧さ 第05回：誰でも仏になれるのか／社会参加仏教は可能か 第06回：葬式仏教は悪いか／ 第07回：倫理の根拠としての人間／人間を逸脱する 第08回：他者の発見と宗教／宗教は倫理を乗り越える 第09回：宗教はしばしば倫理と妥協する／つきまとう他者 第10回：他者という迷路／愛もまた逸脱する 第11回：他者との一体化とナショナリズム／神仏関係をとらえなおす 第12回：自然は取り戻せるか 第13回：他者の極限としての死者／死者と関わる 第14回：死者が生者を支えている／戦争の死者たちは眠れない 第15回：死者なき倫理の限界／まとめと授業アンケート						
成績評価の方法	発表と質疑（e-ALPSコメントをふくむ）4割、レポート6割の比率で総合的に評価します。						
成績評価の基準	卓越している：テキストの内容を十分に理解し、周辺の資料にも目を配り、自分の意見を論理的に展開している。 かなり上にある：テキストの内容を理解し、周辺の資料の一部も参照しながら、自分の意見を述べている やや上にある：テキストの内容を部分的に理解し、自分の意見を述べている その水準にある：テキストの内容の要約はできている						
事前事後学習の内容	毎回の発表では、教科書の内容理解は当然として、そこで取り上げられる仏教のテキストについて、その原典の翻訳書にあたり、引用の文脈を確認すること、また、背景となる議論を自分で調べて、発展的議論（西洋の倫理学などの関連する議論との比較など）を展開することが求められます。発表担当者は分担箇所について上記の点を記したレジュメを作成します。担当者以外の人は、事前に発表箇所と発表レジュメを読み込み、生産的な議論ができるよう十分な予習を行ってください。また、演習後はそれぞれの発表および発言内容を振り返り、理解の足りなかった点を補う復習をしてください。						
履修上の注意	2年生以上でインド哲学に興味のある人であれば、履修できます。（基幹演習を前提とする演習ではありません。）						
質問、相談への対応	基本的にメール（smoriyam@shinshu-u.ac.jp）で受け付けます。授業後の質問も受け付けます。						
教科書	末木文美士『反・仏教学 仏教vs.倫理』（筑摩書房、ちくま学芸文庫、2013年）						
参考書	末木文美士『他者/死者/私 - 哲学と宗教のレッスン』（岩波書店、2007年） 末木文美士『明治思想家論（近代日本の思想・再考）』（トランスビュー、2004年） 和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波書店、岩波文庫、2007年）						

登録コード	L1220100	開講年度	2026				
担当教員	濱崎 友絵			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション概論						
英文授業名	Art Communication: Introduction						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前が対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			・芸術表現形式の多様性や多元性を感受、共感し、自分の言葉で述べるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			・芸術表現形式の多様性や多元性を感受、共感し、自分の言葉で述べるようになる。			
授業の概要	本講義の前半から後半にかけては、西洋音楽の歴史的展開を追いながら、西洋音楽の基礎理論を学んでいく。五線譜上の音符の読み方からスタートし、音程、拍子、リズム、音階、調、和音を順に学ぶ。学生自身の目や耳、手などできる限り身体を使いながら実践的にこなしていく。授業の後半は、前半で学んだ理論を具体的な楽曲を通して学びつつ、より広い視野から「音楽」を在り様を考えていく。						
授業計画	1. イントロダクション 2. 音楽は「感情」を表すのか？ 3. 「楽音」と「騒音」—いろいろな音の世界と音名 4. 音程（1）—「完全なる調和」とは何か 5. 音程（2）—「世俗」の音程と「悪魔」の音程 6. 音階（1）—音の並びの不思議 7. 音階（2）—長音階と短音階 8. 調（1）—音楽を「設計」する 9. 調（2）—音楽に「色付け」をする 10. 感情と音楽との関係性を考える—映画音楽を例に 11. 小まとめ—西洋音楽史と音楽理論の原理 12. 和音（1）基本形を学ぶ 13. 和音（2）コードの原理 14. 西洋音楽を相対化する—トルコの音楽を例に 15. 期末テスト、総括、授業アンケート 受講生の理解度によって、授業の展開順、内容に多少変更を加えることがある。						
成績評価の方法	不定期に課す設問への解答と提出状況（10％）および期末テスト（90％）						
成績評価の基準	授業で示した基本知識を身に付けていれば「水準にある（可）」、これを基準として、応用課題の理解度に応じて、「やや上にある（良）」、「かなり上にある（優）」、「卓越している（秀）」を判断する。						
事前事後学習の内容	極めて短期間で音楽理論の基礎を学ぶため、出席および予習復習は必須。繰り返し課題に取り組むことを求める。						
履修上の注意	疑問点は積極的に質問してほしい。 欠席すると授業内容についていけなくなる可能性があるため、十分注意してほしい。						
質問、相談への対応	メールないし来室も可。オフィスアワーは火曜日の12:40～13:20（新棟305）。事前に来室希望日時をメールで連絡してください。メールアドレス：t-hamazaki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	とくになし。毎回レジュメを配布する。						
参考書	石桁 真礼生 他著 『楽典—理論と実習』 音楽之友社、1998年 片桐功他 『はじめての音楽史』 音楽之友社、2009年 上記以外は、授業の中で紹介していく。						

登録コード	L1220200	開講年度	2026				
担当教員	金井 直			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション概論						
英文授業名	Art Communication: Introduction						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	1 4	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4 時限
講義室	人文 2 1 2 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ, 2 0 2 0 Lカリ						
	【2022年度以前が対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力			個々の芸術と芸術一般について、知識と共感をもって判断し、語るができるようになる。			
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ, 2 0 2 3 Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			個々の芸術と芸術一般について、知識と共感をもって判断し、語るができるようになる。			
授業の概要	本講はヴィジュアルアートを対象とする。とくにルネサンスから現代にいたる美術作品を取り上げながら、作品・作者・鑑賞者・場について論じる。そのうえで、いま、芸術と向き合うことの意義や、芸術とコミュニケーションの関係について、問いと応答を重ねていきたい。 授業の一部は、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして進められる。 なお、地域における芸術実践の紹介・検討は、信州アーツカウンシルの協力を得て実施する。						
授業計画	1. イントロダクション：芸術とコミュニケーション 2. 作品を語る：ジャンル、メディウム 3. 作品を語る：意味 4. 作品を語る：かたち 5. 「作者」の出現：ルネサンスを中心に 6. 「作者」の完成：近代美術 7. 「作者」を問う：シュルレアリスムなど 8. 「制作」から「概念」へ：デュシャン、コースス 9. 「制作」から「行為」へ 10. 「まずしい芸術」 11. 「観者」の「発見」 12. 「場所」をめぐる 13. インスタレーション 14. リレーショナル・アート、SEA 15. まとめと15分の授業アンケート 期末試験の有無 あり						
成績評価の方法	授業で求めるコメントシート 4 割、期末試験 6 割の比率で総合的に評価する。						
成績評価の基準	コメントシートおよび期末テストについて 授業で示した基本語句・基本作例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要作例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せれば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が進められていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	毎回、授業冒頭に前週の講義内容に関する確認をおこなう。 講義内容および講義中に指示・配布する資料等に即して、事後学習を行っておくこと。						
履修上の注意	美術館や博物館、ギャラリー等を普段から訪れ、鑑賞経験や問題意識を高めておくこと。 また、美術にかぎらず、音楽やパフォーマンス、映画にも関心を持ち、とくに松本市内でおこなわれる公演・上映には、すすんで出かけてみるように。						
質問、相談への対応	まずはメールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp (a)は@						
教科書	用いない。						
参考書	高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年 エルンスト・H. ゴンブリッチ『美術の物語』ファイドン、2011年 グザヴィエ・バラル・イ アルテ『美術史入門』（文庫クセジュ）、白水社、1999年 山本浩貴『現代美術史』中公新書、2019年 美学会編『美学の事典』丸善出版、2020年 フォスター他編『ART SINCE 1900:図鑑 1900年以後の芸術』東京書籍、2019年 末永他『カラー版 20世紀の美術』美術出版社 2013年 ダントー『アートとは何か』人文書院 2018年 西村清和編『分析美学基本論文集』勁草書房 2015年						

登録コード	L1233100	開講年度	2026				
担当教員	金井 直 他			副担当	濱崎 友絵		
授業科目	芸術コミュニケーション特論						
英文授業名	Art Communication: Lecture with Workshop						
授業タイトル	芸術コミュニケーション特論						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文2 1 2 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加わった対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			多様な芸術実践を知り、その価値や意義を多角的に判断できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			多様な芸術活動に実践的に接し、その価値や意義を多角的に評価・判断できるようになる。			
	【2023年度以降加わった対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			多様な芸術実践がもたらす経験や知見を、持続可能な社会の実現に活かすことができる。			
授業の概要	芸術とコミュニケーションの関わりを、広い視野と多様な事例をもって学ぶ授業。複数教員によるオムニバス形式で進める。音楽、美術など、各教員の専門にかかわるジャンルについて、適宜ゲストを迎えつつ、講義形式および見学等学外授業を組み合わせで展開する。受講者によるリサーチ、発表も重視する。また、関連文献の抜粋（和文・若干の英文）を読むことで、理解を深めていく。なお、学外授業は、県内自治体の協力を得て実施する。						
授業計画	1. イントロダクション 2. 芸術の価値をめぐって 3. キュレーターという仕事 4. アートプロジェクトについて 5. 美術と社会的包摂 6. 美術と教育 7. 美術とデザイン 8. 長野県内の事例 9. 音楽学の射程 10. 音楽を「書く」ということ 11. 音楽の「歴史」を考える 12. 楽器とは何か 13. 地域と音楽 14. 「音楽家」を考える 15. 音楽 - 美術—舞踊をめぐる視角、15分の授業アンケート 期末試験の有無 なし 授業の進捗状況によって内容に多少の変更が生じる場合があります。						
成績評価の方法	授業時のコメントシート等簡易な記述30%、教員ごとに出題するレポート2件70%						
成績評価の基準	コメントシートおよびレポートについて、授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	授業時のコメントシート等においては、前回の授業内容を踏まえた解答も求めるので、授業内容・配布資料の復習に日々努めること。						
履修上の注意	リサーチや発表をお願いすることもあるので、一定の予習復習が常に必要。実作とふれあう経験が不可欠。まつもとと市民芸術館等、市内文化施設での授業を複数回実施する予定。集中的に開講される場合は、その旨、受講生にメールで連絡する。						
質問、相談への対応	メールで。 kanait@shinshu-u.ac.jp						
教科書	特になし。						
参考書	山本浩貴『現代美術史』中公新書、2019年 美学会編『美学の事典』丸善出版、2020年 徳丸吉彦『ミュージックスとの付き合い方 民族音楽学の拡がり』放送大学叢書、2016年 日本音楽学会編『音楽史事典』丸善出版、2025年						

登録コード	L1233400	開講年度	2026				
担当教員	金井 直			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション特論						
英文授業名	Art Communication: Lecture with Workshop						
授業タイトル	芸術コミュニケーション特論						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			美術史の方法を俯瞰的・批判的に捉えることで、多様な価値観のあらわれを受容し、かつ多角的に判断できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			美術史の方法を俯瞰的・批判的に捉えることで、多様な価値観のあらわれを受容し、かつ多角的に判断できるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			美術史の方法を俯瞰的・批判的に捉えることで、多様な価値観のあらわれを受容し、かつ多角的に判断できるようになる。その学知を介したコミュニケーションを開くことができるようになる。			
授業の概要	「美術と芸術理論の歴史」と題し、ルネサンス以後の西洋美術・現代美術の流れと、それに関わる芸術理論の展開を論じる。本授業では美術史学の歴史をたどりながら、関連する古今の美術作品を紹介する。また、多様なトピックにもふれながら、問題の範囲・射程を明らかにする。基本的に講義形式の授業ではあるが、数回、小レポートの提出を求める。 授業の一部は、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして進められる。						
授業計画	1. イントロダクション 2. 美術史のはじまり（1） 3. 美術史のはじまり（2） 4. ヴァザーリ（1） 5. ヴァザーリ（2） 6. 17世紀の美術史 7. ヴィンケルマン 8. 19世紀の美術史学（1） 9. 19世紀の美術史学（2） 10. 20世紀初期の動向（1） 11. 20世紀初期の動向（2） 12. 20世紀後期の動向（3） 13. 20世紀後期の動向（4） 14. 「美術史の終焉？」以後の美術史 15. まとめと15分の授業アンケート						
成績評価の方法	小レポート提出と各回授業時の質問票50%、期末レポート50%						
成績評価の基準	レポートについて、授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	事前学習：参考書ないし関連図書を読む。事後学習：授業内容をよくまとめ、期末レポートの準備をすすめる。						
履修上の注意	美術史のながれを、参考書等をたよりに、あらかじめ大きくつかんでおくことをおすすめする。期末レポートのほかに、数回、小レポート提出を求める。実作とふれあう経験が不可欠。県内外の美術館を活用するように。						
質問、相談への対応	メールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp (a)は@						
教科書	なし。						
参考書	グザヴィエ・パラル・イ アルテ『美術史入門』白水社（クセジュ）、1999年 加藤哲弘『美術史学の系譜』中央公論美術出版、2018年 高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年 ゴンブリッチ『美術の物語』河出書房新社、2019年						

登録コード	L1234000	開講年度	2026				
担当教員	濱崎 友絵			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション特論						
英文授業名	Art Communication: Lecture with Workshop						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文311実習室	遠隔授業科目		読替科目			
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加わった対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができるようになる。			
	【2023年度以降加わった対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、多様な文化や社会を理解するための力を身につけることができるようになる。			
授業の概要	音楽を作り上げていくプロセスを感受する授業となる。取り上げる楽曲は、受講生と相談の上、ミュージカルとオペラのアンサンブルを中心に取り上げるものとする。なお授業の性質上、受講生は、芸術コミュニケーション概論を受講しているか西洋音楽の基礎理論を習得済みであることが望ましい。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 歌唱の基礎 3. 映像鑑賞 4. 映像解説 5. ミュージカルを歌うー読譜 6. ミュージカルを歌うーパート練習 7. ミュージカルを歌うー楽曲分析 8. ミュージカルを歌うーアンサンブルを作る 9. オペラ史を学ぶ 10. オペラを歌うー読譜 11. オペラを歌うーパート練習 12. オペラを歌うー楽曲分析 13. ゲスト招聘 14. オペラを歌うーアンサンブルを作る 15. 発表、授業アンケート 進捗状況、受講者の希望により、内容に多少の変更が生じる場合がある。						
成績評価の方法	実技50%、レポート50%の比率で総合的に評価をする。						
成績評価の基準	授業で提示される課題ができれば「水準にある」、応用課題が解ければ「やや上にある」、自分なりの表現を提示できれば「かなり上にある」、独創的な解釈および表現ができれば「卓越している」						
事前事後学習の内容	楽譜を配布するので、予習復習（譜読み等）が必須となる。DVDなどで映像を積極的に鑑賞すること。						
履修上の注意	週末など授業時間外の作業や舞台鑑賞が求められる場合がある。 また伴奏ピアニストも歓迎したい。 「学修の補充の対象とする事由」に該当する場合であっても、4回以上対面授業に出席できない場合は、授業の達成目標に到達に至る教育の質を担保することができないため単位認定はできないので留意されたい。 履修希望学生が多い場合は抽選（ないし選考）をする場合がある。						
質問、相談への対応	メールないし来室も可。オフィスアワーは火曜日の12:40～13:20（新棟305）。事前に来室希望日時をメールで連絡してください。メールアドレス：t-hamazaki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	とくになし。						
参考書	授業中に指示する。						

登録コード	L1234400	開講年度	2026				
担当教員	金井 直			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション基幹演習						
英文授業名	Art Communication: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文311実習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			芸術文化の歴史の多様性を理解し、その価値や意義を多角的に 判断することで、創造的な未来を切り拓くことができるように なる。			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現で きる高度なメディアリテラシー			高度なメディアリテラシーをもって、芸術文化の情報を適切に 集約・分析・表現できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			芸術文化の多様性を理解し、その価値や意義を多角的に判断す ることができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能 な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			多様な芸術文化の価値や意義を、実践を通して学び、伝えるこ とができるようになる。			
授業の概要	芸術コミュニケーションを支える基本的なアトリテラシーを、作品分析と文献読解を通して錬成する。 発表形式の授業形態をとることで、受講者個々のプレゼンテーション能力を高める。 今年度は「現代美術の諸相」をテーマとし、文献精読と作家作品研究を並行しておこなう。また、「工芸 の五月」に参加し、芸術文化の可能性と諸問題を実践的に学ぶ。 多様な事例、観点の関連や相違を吟味しつつ、芸術研究の可能性について検討したい。 授業の一部は、担当教員の学芸員としての実務経験を活かして進められる。 なお、地域における芸術実践の紹介・検討は、信州アーツカウンシルの協力を得て実施する。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 文献講読と討議（表現、創造性について1） 3. 文献講読と討議（表現、創造性について2） 4. 文献講読と討議（ジャンル、メディウム1） 5. 文献講読と討議（ジャンル、メディウム2） 6. 文献講読と討議（制度・社会1） 7. 文献講読と討議（制度・社会2） 8. 文献講読と討議（制度・社会3） 9. 文献講読と討議（キュレーション1） 10. 文献講読と討議（キュレーション2） 11. 実践例調査（概観） 12. 実践例調査（企画準備） 13. 実践例調査（企画運営） 14. 実践例調査（討議） 15. まとめと15分の授業アンケート 期末試験の有無 なし						
成績評価の方法	毎回の授業時の発表や授業後のコメントシートおよび小レポート50%、企画の実施に直接関わる活動20%、まとめレポート30%の比率で評価する。						
成績評価の基準	発表およびレポート等について、 授業中の指示にしたがって、基本的な情報をまとめていれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対す る理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せば「かなり上 にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考を進めて、説得力ある自説を展開してい れば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	事前学習：文献精読や作家リサーチを求める。事後学習：授業内容を踏まえたレポート等を求める。						
履修上の注意	関連文献の精読を求める。 情報の収集力が問われる。各地の美術館・ギャラリーを活用するように。 実践例調査として「工芸の五月」（ https://matsumoto-crafts-month.com/ ）の参与観察を予定。アーティ ストトーク、ワークショップ等のイベントを企画運営する。日程・詳細についてはガイダンス時に説明・ 調整する。 この演習の成果を活かして後期の芸術コミュニケーション発展演習 で実施する事業のコンセプトや内容、 方法を設定する。できるだけ両演習の履修をお願いしたい。						
質問、相談への対応	メールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp (a)は@						
教科書	なし。必要な資料は配布、もしくは入手方法を指示する。						

参考書	末永他『カラー版 20世紀の美術』美術出版社 2013年 フリーランド『でも、これがアートなの』ブリュッケ 2007年 ダントー『アートとは何か』人文書院 2018年 西村清和編『分析美学基本論文集』勁草書房 2015年 山本浩貴『現代美術史』中公新書、2019年 小松田儀貞編『社会化するアート／アート化する社会』水曜社 2022年
-----	--

登録コード	L1234600	開講年度	2026				
担当教員	濱崎 友絵			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション基幹演習						
英文授業名	Art Communication: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文311実習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ、2025Lカリ、2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、多様な文化や社会を理解するための力を身につけることができるようになる。			
授業の概要	松本の音／音楽文化を多角的に検討する授業である。2026年度、松本市は「東アジア文化都市」に選定され、日中韓の代表都市と連携した文化交流事業が展開される予定である。本授業はこの国際的枠組みを視野に入れつつ、文献講読、フィールドワーク、映像制作等の実践を通して松本市の音楽文化を再検討、考察するとともに、音楽を「都市の自己表象」として捉え直す。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 音楽と都市 第3回 「創られた伝統」概念の読解 第4回 サウンドスケープ理論と都市の音 第5回 松本市の文化政策と音楽都市イメージ 第6回 セイジ・オザワ 松本フェスティバルの歴史と松本 第7回 松本の民俗芸能・環境音の検討 第8回 グループワーク（１）テーマ検討 第9回 グループワーク（２）フィールドワーク設計 第10回 グループワーク（３）フィールドワーク実施 第11回 データ整理・音素材の分析 第11回 映像構成、多言語説明文作成（１）グループ検討 第12回 映像構成、多言語説明文作成（２）グループ発表 第13回 発表、上映会 第14回 再分析、検討 第15回 総括 授業の進捗状況によって、内容に多少の変更が生じる場合がある。						
成績評価の方法	発表（50％）と記録作成（レポート、50％）						
成績評価の基準	授業の目的を理解し活動できていれば「水準にある」、リサーチに積極的にかわり、課題や問題解決を提示、実施できれば「やや上にある」、リーダーシップを発揮し取り組んでいれば「かなり上にある」、これらをすべて踏まえた上で、自分なりの主体的な活動と思考がともなっていれば「卓越している」と評価する。						
事前事後学習の内容	企画に関連する事前事後調査（文献、フィールド調査等）が必要となる。東アジア文化都市関連の多様なイベントへの積極的な参加も求める。						
履修上の注意	なお本講義は、ミーティングなどを含め、週末を含めた授業時間外の作業が求められることになる。その際の交通費等、必要経費は各自の負担となる。 個人、グループ発表での無断欠席は認められないので留意されたい。なお、履修希望学生が多い場合は抽選（ないし選考）をする場合がある。						
質問、相談への対応	授業終了後、随時。来室も可。オフィスアワーは木曜日の12:40～13:20（新棟305）。事前にメールでアポイントを。t-hamazaki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	特になし。必要な資料は配布する。						
参考書	初回の授業で紹介する。						

登録コード	L1241400	開講年度	2026				
担当教員	金井 直			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション発展演習						
英文授業名	Art Communication: Advanced Workshop Seminar						
授業タイトル	芸術コミュニケーション発展演習						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文311実習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力				芸術文化の歴史の多様性を理解し、その価値や意義を多元的に 判断することで、創造的な未来を切り拓くことができるように なる。		
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現で できる高度なメディアリテラシー				高度なメディアリテラシーをもって、芸術文化の情報を適切に 集約・分析・表現できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				受講者、参加作家、関係者、地域との協議・協働を活かしなが ら、多様性に開かれた企画を構想できるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能 な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				受講者、参加作家、関係者、地域との協議・協働を活かしなが ら、多様性に開かれた企画を実現できるようになる。		
授業の概要	アートリテラシーをさらに実践的に展開する「芸術実力」の獲得を目指す。受講者が自らの関心にそってキュレーター、エデュケーターの役割を担い、自主的な企画活動を進めると同時に、討議を行い、コミュニケーション能力と問題解決能力を高めていく。 展覧会あるいはワークショップイベントの開催を目標としながら、コンセプトの討議、アーティスト・芸術関係者との交流、展覧会の見学、企画立案、業務分担・運営、関連プログラムのデザインと実践、成果の分析とドキュメンテーションなど、必要なあらゆる活動を行う。 担当教員が学芸員としての実務経験を活かして授業を進める。 なお、地域における芸術実践との協働は、信州アーツカウンシルの協力を得て実施する。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 企画会議（1）枠割分担、意見交換 3. 学外調査 4. ゲストとのミーティング 5. 企画会議（2）概要決定 6. 企画準備（1）作品関連 7. 企画準備（2）会場設営 8. 企画準備（3）広報 9. 会場設営 10. 会場運営 11. 関連企画運営 12. 会場撤去 13. 成果分析 14. 記録作成 15. まとめと15分の授業アンケート 期末試験の有無 なし						
成績評価の方法	各回の課題20%、協議への参与20%、担当活動への取り組み20%、レポート40%						
成績評価の基準	事前事後学習に努め、授業の目的を理解して活動できれば「水準にある」。問題・課題発見に努め、その解決・改良方法を提案し、実施できれば「やや上にある」。個々の活動について、リーダーシップを発揮できれば「かなり上にある」。活動に深く関わり、また、授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が進められていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	授業時間中には主に発表・討議をおこない、統一的な課題の発見・設定を試みる。 その発表・討議の素材収集が「事前学習」となる。 発見・設定された統一的な課題の解決・展開のための徹底的なリサーチが「事後学習」となる。						
履修上の注意	授業時間外の各自の自主的なリサーチが不可欠。現代美術、異文化理解、地域とのコミュニケーションなどに強い関心を抱く、実践志向の学生の参加を期待している。 企画内容やゲスト作家は前期の芸術コミュニケーション基幹演習 を介して決定されるので、あわせて同演習の受講を推奨する。 展覧会・イベント等開催時期を中心に、授業時間外の活動が増える。その点を理解した上で、履修してほしい。						
質問、相談への対応	メールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp						
教科書	なし。						

参考書

熊倉純子監修『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』水曜社、2014年
アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会編『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐって』フィルムアート社、2018年
山本浩貴『現代美術史』中公新書、2019年
他、授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1241600		開講年度	2026			
担当教員	濱崎 友絵			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション発展演習						
英文授業名	Art Communication: Advanced Workshop Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文311実習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができるようになる。		
	【2023年度以降加わった対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、多様な文化や社会を理解するための力を身につけることができるようになる。		
授業の概要	本授業は、前期基幹演習で扱った「都市と音楽」「自己表象」という視点を東アジアへと拡張し、日本・韓国・中国の音楽文化を比較検討する。前半では各国の伝統音楽の歴史的形成と社会的背景を学び、後半では現代ポピュラー音楽（J-POP・K-POP等）を取り上げ、都市、国家、メディアとの関係を分析する。文献講読、音源視聴、映像資料分析、歌唱実践も交えながら、各音楽文化の都市・国家・ポピュラー音楽の関係を総合的に検討する。なお本授業は受講生の発表と議論によって展開する。						
授業計画	第1回 ガイダンス / 前期の振り返り：「都市と音楽」視点をめぐって 第2回 「東アジア音楽文化」を考える 第3回 中国伝統音楽概観 第4回 韓国伝統音楽の基礎 第5回 日本の伝統音楽 第6回 伝統音楽と国家形成 / 文化政策 第7回 ポピュラー音楽と都市文化（1）J-POP の成立 第8回 ポピュラー音楽と都市文化（2）K-POP 第9回 ポピュラー音楽と都市文化（3）C-POP 第10回 音楽とアイドル文化 第11回 音楽とソフトパワー（国家戦略と文化輸出） 第12回 楽曲比較分析 第13回 演奏実践 第14回 MV比較分析 第15回 総括討論：東アジア音楽文化の現在、未来、授業アンケート 授業の進捗状況によって内容に多少の変更が生じる場合がある。						
成績評価の方法	発表（50％）と記録作成（レポート、50％）						
成績評価の基準	授業の目的を理解し活動できていれば「水準にある」、リサーチに積極的にかかわり、課題や問題解決を提示、実施できれば「やや上にある」、リーダーシップを発揮し取り組んでいれば「かなり上にある」、これらをすべて踏まえた上で、自分なりの主体的な活動と思考がともなっていれば「卓越している」と評価する。						
事前事後学習の内容	文献読解および事前調査が必要となる。 授業時間中に各人が発表をおこない、課題や問題点の洗い出しと共有をおこなっていく。						
履修上の注意	なお本講義は、ミーティングなどを含め、週末を含めた授業時間外の作業が求められることがある。その際の交通費等、必要経費は各自の負担となる。 グループワークに積極的に関わることが求められる。また担当回を無断欠席した場合は単位は認められない。 履修希望学生が多い場合は抽選（ないし選考）をする場合がある。						
質問、相談への対応	授業終了後、随時。来室も可。オフィスアワーは火曜日の12:40～13:20（新棟305）。事前にメールでアポイントを。t-hamazaki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	特になし。						
参考書	初回の授業で紹介する。						